

震災前後における住宅選びの嗜好の変化

1130507 屋敷亮太

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究は、平成 23 年 1 月～平成 24 年 7 月までの統計データをもとに高知市の人口増加の現状を調査し、想定津波深と照らし合わせる事によって住民の住宅選びの嗜好の変化を調査し、津波被害深と人口変化についてその特徴を明らかにしていく。

2. 背景

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に起こった東日本大震災によって東北地方は多大なる被害をうけた。これにより高知県では南海地震に備えて様々な政策や対策が現在練られている。高知県における津波災害の予測に当たっては、これまで 2009 年に 1854 年 安政南海地震（M8.4）クラスをモデルに計算した結果に基づき、様々な対策が行われてきた。しかし、2011 年の東日本大震災はこれまでの想定を遙かに上回る規模で発生し、東日本各地に甚大なる影響を与えた。その教訓として、2012 年に高知沖で予測される最大規模の地震を想定して再度シミュレーションを行い、2012 年に新たに津波想定深推進マップが公表された。これによると、高知市中心がおおよそ 2～3m の被害が予想され、以前と比較して 6 倍程度被害想定が大きくなっている。この想定を受け、高知県の住宅選びにこの津波深がどの程度影響を与えているか、人口変動に影響を及ぼしているか明らかになっていない。

3. 研究方法

本研究は、はじめに、高知県統計書を使って高知市における人口増加率を計算し、変動を町丁別に整理する。同時に、平成 24 年に公表された高知市想定津波深より、町丁目ごとに津波の浸水深を目視で判読する。最後に、想定浸水深と人口増加率との間で関係性が見出されるか分析する。

4. 調査結果

4.1 高知市全体を対象とした年齢区分別の人口変化

グラフで見ると他の年齢区分と比べ 65 歳以上は増加している事がわかる。それに比べ他の年齢層では低い数値となっている。



図 1 高知市全体で見た年齢区分別の人口変化率

図 2 は高知市全体の想定津波深のマップである。新たに公開された被害予測によると沿岸部は 5～10m はりまや等中心部でも 2～3m と予測されている。

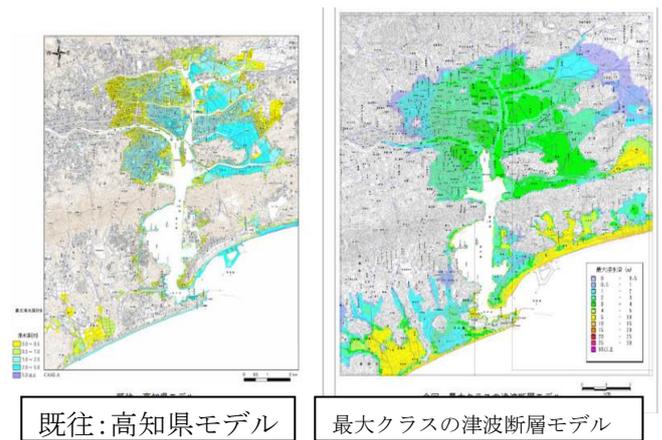


図 2 高知市想定津波浸水図

4.2 年齢別の人口増加率

平成 23 年 4 月から平成 24 年 7 月までのデータを 3 区分で整理すると全体的に減少傾向が見られる中、65 歳以上の区分では増加傾向が見られた。

4.1 節より年齢別での大まかなばらつきに変化を確認できたことから若年層が特に津波深の大きいところから移動しているのではないだろうかという疑問が浮かんだ。よって年齢 3 区分で研究を進めていたが新たに 0 歳から 4 歳を項目に追加し調査を進めた。想定津波深の大きな 3m～4m 地点では大きく変化が見られた。

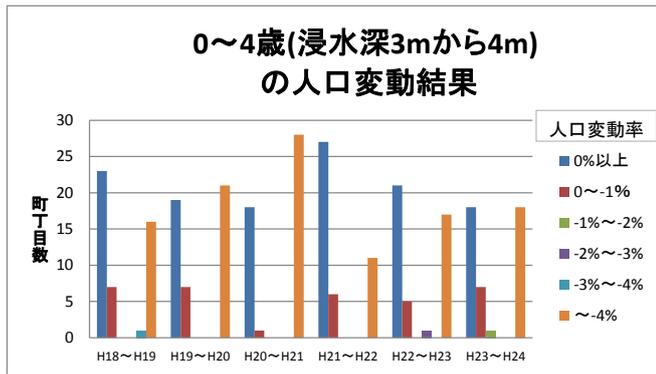


図3 0~4歳の人口変動結果(3-4m地点)

4.3 性別からの視点

次に性別による影響について検討した。その結果、男女での人口変化率と想定津波深の関係について津波の浸水の有無及び浸水深ともに男女で大きな差が見られなかった。

4.4 中心部の移動率

次に、高知市中心部、そして年齢に関しても0~4歳、65歳以上に絞って調査を行った。子どものある家庭では津波深の浅いところに引っ越すのではないかと想定し、0~4歳は家族での移動、65歳以上に関しては全体での数値として増加傾向にあったことから具体的にどこに多く移動しているのかを調査するためである。

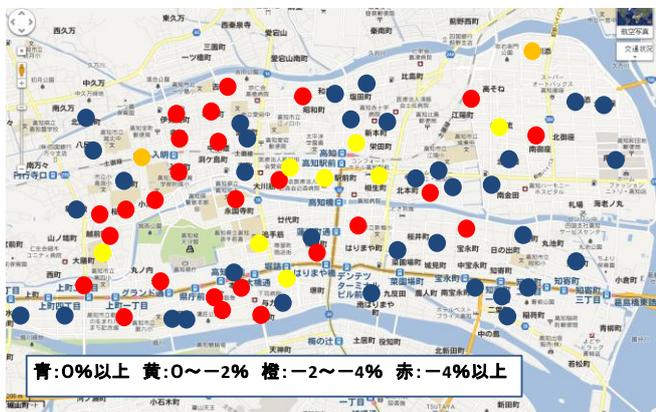


図4 町丁目ごとの人口変化率(0~4歳)

図3より津波深と町丁目数の人口変化率との関係性は見られなかった。しかし、新興住宅地が多く立ち並ぶ北久保・杉井流地区及び、宝永町・知寄町などの電車通り沿いは津波深3~4mと予測されているが0~4歳は増加している。しかし反面高知城周辺は1~2mだが減少傾向にある。このことから想定津波深との関係はあまりないとの結果となった。

図5は65歳以上の高齢者の町丁目数の人口変化率を示す。高知市全体で見ると高齢者のみ増加傾向にある。しかし、新興住宅地周辺地区では大幅に減少しているが電車通り沿いの

地区は逆に増加していることが判明した。これは想定津波深の浅い所へと移動している事が考えられる。また、電車通り沿いでは減少が少ないが昔からその地に住んでいる人たち、商業を営む人たちがその地から離れられないのが背景にあるのではないかとという結果となった。



図5 町丁目ごとの人口変化率(65歳以上)

6 考察

5章で分析した高知市における人口増加率と津波深による結果により、居住者の変化について検討した。

- ・高齢者の増加
津波深などはあまり関係なく地元嗜好（少子高齢化）
- ・0~4歳の減少
浸水深の深い所から浅い所へと移動している。しかし新興住宅地周辺では減少はあまり見られない。
- ・男女別での数値はあまり変化なし
全体として見ると性別には大きな関係はないが、強いて言うならば女性の方が減少傾向にある。

7 今後の課題

- ・世帯変化分析の必要性
- ・不動産販売業者に対するヒアリング（アンケート）
- ・震災前後における住宅開発の変化の必要性
- ・長期的に見る変化

引用文献

- [1] 高知市ホームページ（統計データ）
<http://www.city.kochi.kochi.jp/>
- [2] 高知県庁ホームページ（津波深）
<http://www.pref.kochi.lg.jp>